

2024 年度 第52回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物件名	株式会社 山崎設備設計 新社屋		
	所在地 石川県小松市		
設計者	株式会社 山崎設備設計／株式会社石嶋設計室		
	TEL		URL



株式会社山崎設備設計は、建築設備設計においてWEBを活用した独自の事業スタイルにより、若い世代が活躍する成長中の企業である。本社屋は、社員数の増加への対応と、社員同士のコミュニケーションの活性化による知的生産性の向上、そして従業員満足度を高めることを目的として計画されたものである。快適なオフィス環境に加えて、遊び心のある空間づくりによって、「出社したくなるような会社」を目指した。仕事だけでなく、健康面や従業員同士の交流にも配慮することで従業員満足度を高め、企業理念の「仕事は楽しく」を実現する。

1階と2階で用途を分けたデザインとし、それぞれで違う体験を提供する。1階は執務を中心とするフロアである。会議室にはモニターを設置し複数人でのオンライン会議を可能にするなど、WEBを活用した当社の事業スタイルに即した空間設計とした。2階には従業員専用のカフェやジムを設置し、従業員同士のコミュニケーションの場となるよう設計した。

**外観**：未来志向のラボをイメージさせるデザインとし、周囲とは一線を画す存在感を発揮する。

**執務室**：大きなワンルームにすることで、シームレスで開放感のある空間とし、柔軟なレイアウト変更にも対応する。

**会議室**：用途に合わせて使い分けができる、自由な働き方を促進。業務の効率性を高める。

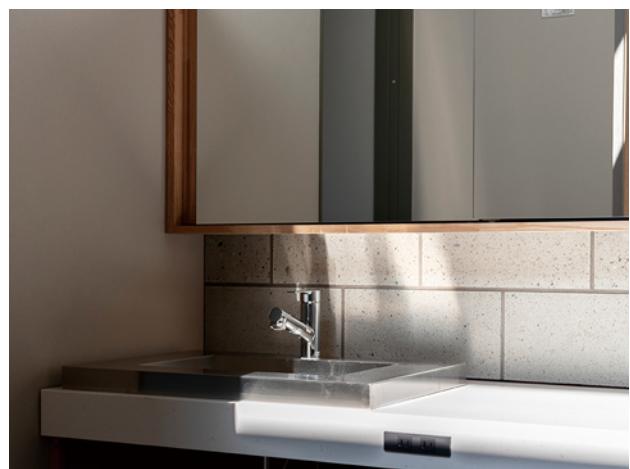
**カフェ**：窓から白山連峰が望む明るい空間で、社員同士のコミュニケーションを活性化させる。

**ジム**：カーテンウォールを採用することで、自然光を取り入れながらも外部の騒音を遮断し、プライベートな空間を創出した。

**照明**：フロアによって照明手法を変えることで、従業員が好きな場所で多様に居心地を体験できる場とした。

2024年度 第52回 いしかわインテリアデザイン賞 「石川県知事賞」

物件名	素材が魅せる平屋		
	所在地 石川県能美市		
設計者	デザイナー名 NOTOHIBAKARAnoie 岸田 陽介		
	TEL		URL



### ■設計趣旨

色とりどりの植栽を配した軒の深い玄関ポーチ空間は、家族を温かく迎え入れるとともに、周辺環境に対し緑を提供する役割を果たす。

LDKの背の高い勾配天井にはハイサイドライトを配置し、日中の自然光で効果的に室内を照らすことで、照明負荷を低減した。

### ■石川県産材の有効活用

石川県の県木である能登ヒバをはじめ、石川県産材をふんだんに活用。

能登ヒバにはヒノキチオールという成分が豊富に含まれており、除菌・消臭・調湿・アロマ効果に優れ、

古くから建築に用いられている石川県を誇る木材である。

ストレスやアレルギーでお困りの方が増えている昨今、木をはじめ自然素材が生活空間の改善に有効と、自然素材のすばらしさが見直されています。

土台、合板でも使用できない能登ヒバの端材をフローリングやOSBとして余すことなく活用しており、美しい木目と安らぐ香りが上質な空間を作り上げます。

小松の滝ヶ原石と能登の珪藻土も採用し、素材もデザインも本物にこだわった住宅。

石川県の素材を余すことなく使用し、環境に配慮した再生可能な家づくりを実現した。

### ■快適で豊かな住まいの提案

断熱等級6相当、第一種換気全熱交換器システムを用い熱損失を軽減し、快適でありながらエアコンの稼働率も抑える。基礎断熱を採用し冬場の脚冷えも改善した。

また、自然素材に包まれた空間は、夏場の湿気やカビの発生も軽減する。

ダイニングテーブルやソファ・洗面・収納まで造作設計を手掛け、使い勝手よく統一感のある空間を創造した。

### ■石川県産材の採用箇所

土台：能登ヒバ無垢材

壁面：能登ヒバOSB

床：能登ヒバフローリング

下地：能登ヒバ合板

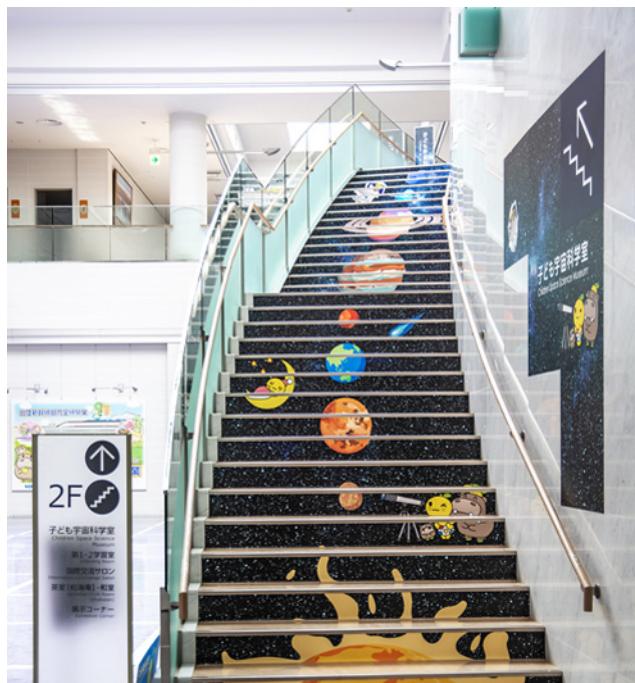
側板：能登ヒバ集成材

軒裏天井：能登ヒバ羽目板

その他：滝ヶ原石、能登珪藻土

2024年度 第52回 いしかわインテリアデザイン賞 「金沢市長賞」

物件名	能美市根上学習センター 子ども宇宙科学室 展示リニューアル		
	所在地 石川県能美市		
設計者	ヨシダ宣伝株式会社 高橋 真紀・瀬川咲樹・北島夕愛		
	TEL		URL



## 能美市根上学習センター子ども宇宙科学室展示リニューアル

根上学習センター(能美市)にある子ども宇宙科学室の展示リニューアル計画。

1995年に能美市大成町に落下した「根上いん石」は、世界でも3例しかない自動車に衝突した珍しいいん石で、展示室ではその貴重な車を実物展示している。

今回のリニューアルでは、「新星景写真」による能美の星空を、壁面を活用してダイナミックに再現するとともに、子どもたちに楽しく学んでもらうために、イラストを用いた分かりやすい表現とした。

また、いん石が衝突した車の横にモニターを設置しAR技術でいん石が落下する様子をCG映像で再現するなど、コンパクトな空間ながらも、子どもたちの創造力や探求心を刺激する展示空間を目指した。